

〔原著〕 松本歯学 15 : 288~296, 1989

key words : 冠 — 経年的装着頻度 — 統計

## 昭和62年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1 単独冠について

稲生衡樹, 森岡芳樹, 片岡 滋, 宮崎晴朗, 大島俊昭  
小林賢一, 岩井啓三, 石原善和, 甘利光治

松本歯科大学 歯科補綴学第2講座 (主任 甘利光治 教授)

中根 卓

松本歯科大学 口腔衛生学教室 (主任 近藤 武 教授)

### A Statistical Observation of Crowns and Bridges in 1987 Part 1 Single Crowns

KOHKI INABU, YOSHIKI MORIOKA, SIGERU KATAOKA,  
HARUO MIYAZAKI, TOSHIKI OHSHIMA, KENICHI KOBAYASHI  
KEIZO IWAI, YOSHIKAZU ISHIHARA and MITSUHARU AMARI

*Department of Prosthodontics II, Matsumoto Dental College  
(Chief : Prof. M. Amari)*

SUGURU NAKANE

*Department of Community Dentistry, Matsumoto Dental College  
(Chief : Prof. T. Kondo)*

#### Summary

A study was made of 945 crowns which had been fabricated for patients at the Prosthodontic Clinic of Matsumoto Dental College during 1987.

Some of results are as follows ;

- 1) 43.69% of the patients were males and 56.31% were females.
- 2) 87.16% of the patients were between 20 and 59 years old.
- 3) Crowns of the upper abutment teeth were more numerous than for the lower abutment teeth.
- 4) 71.96% of the crowns were fabricated for nonvital teeth.
- 5) 45.19% of the crowns were fabricated as full cast crowns, 21.59% as facing crowns

(20.32% as porcelain fused to metal crowns, 1.27% as resin facing crowns), 10.79% as jacket crowns (9.42% as resin jacket crowns, 1.38% as porcelain jacket crowns), 21.80% as partial coverage crowns, and 0.63% as dowel crowns.

結 言

各種補綴物の統計的調査によって、補綴学の推移、材料や技術の進歩、さらに社会情勢や地域性に関連した患者の補綴物に対する要求など、様々な事柄が推定でき、また、将来の展望に対し多くの事柄が得られる。

こうしたことから、私たちの講座でも松本歯科大学病院補綴診療科における冠・架工義歯補綴物について一連の経年的調査<sup>1-7)</sup>を行っている。そこで、今回は、昭和62年1月から同年12月までの1カ年間について、単独冠を中心に調査し、同時に昭和61年の調査報告<sup>7)</sup>と比較、検討したものをまとめたので報告する。

調査方法と項目

松本歯科大学病院補綴診療科における昭和62年1月から同年12月までの1カ年間についての外来患者483名および作製、装着された単独冠945個について、病院カルテ、補綴科プロトコールおよび材料センター材料支給伝票を資料として用い、マイクロコンピューター、Macintosh plus (Apple社製)を用いてデータを分類集計後、以下の各項目について調査した。

A. 患者総数と地域別患者数

単独冠および架工義歯を施した患者の住所を塩尻市内、これを除く長野県内および長野県外とに区別し、その数を調査した。

B. 性別および年齢階級別患者数

患者の年齢を20歳未満、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代および80歳以上の8段階に分け調査した。

C. 単独冠および架工義歯の装着数

装着物を単独冠および架工義歯に分け、その総数を調べた。

D. 単独冠について

1. 年齢階級別装着頻度

患者の年齢を前記Bに準じて区分し、各年齢階級別装着頻度を調べた。

2. 性別装着頻度

3. 部位別装着頻度

装着部位を上、下顎および前歯部、小臼歯部、大臼歯部の各歯群に分け調査するとともに、年齢階級別装着頻度との関係を調査した。

4. 支台歯の生・失活歯別装着頻度

支台歯を生・失活歯別に分類して装着頻度を調査するとともに、年齢階級別および部位別装着頻度との関係を調べた。

5. 種類別装着頻度

支台装置の種類を全部铸造冠、一部被覆冠、前装冠(既製陶歯前装冠、陶材溶着铸造冠、レジン前装冠の3種)、ジャケット冠(陶材およびレジンジャケット冠の2種)、およびアタッチドタイプポストラウン(以下継続歯と略す)に分類して、それらの装着頻度を調査するとともに、年齢階級別、性別および部位別装着頻度との関係を調べた。

6. 支台築造体について

支台築造体をキャストコア、レジンコア、アマルガムコア、セメントコアに分類して、その築造頻度を調べると同時に、築造部位および単独冠の種類別築造頻度との関係を調査した。

調査成績

A. 患者総数と地域別患者数

表1に示すように、単独冠および架工義歯を装着した患者総数は483名であった。その構成は、塩尻市を除く長野県内の患者構成率が271名(56.11%)と過半数を占め、塩尻市内在住者は193

表1：地域別患者数

地 域	患 者 数	
	昭和62年	昭和61年
塩 尻 市 内	193 (39.96)	195 (38.01)
長 野 県 内 (除・塩尻市内)	271 (56.11)	299 (58.28)
長 野 県 外	19 ( 3.93)	19 ( 3.70)
計	483 (100.00)	513 (100.00)

(%)

表 2：性別および年齢階級別患者数

年齢階級 調査年		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
男	昭62	5 ( 1.04)	53 ( 10.97)	46 ( 9.52)	34 ( 7.04)	44 ( 9.11)	24 ( 4.97)	5 ( 1.04)		211 ( 43.69)
	昭61	12 ( 2.34)	55 ( 10.72)	48 ( 9.36)	33 ( 6.43)	34 ( 6.63)	28 ( 5.46)	5 ( 0.97)		215 ( 41.91)
女	昭62	9 ( 1.86)	69 ( 14.29)	58 ( 12.01)	60 ( 12.42)	57 ( 11.80)	17 ( 3.52)	1 ( 0.21)	1 ( 0.21)	272 ( 56.31)
	昭61	16 ( 3.12)	55 ( 10.72)	92 ( 17.93)	64 ( 12.48)	47 ( 9.16)	23 ( 4.48)		1 ( 0.19)	298 ( 58.09)
計	昭62	14 ( 2.90)	122 ( 25.26)	104 ( 21.53)	94 ( 19.46)	101 ( 20.91)	41 ( 8.49)	6 ( 1.24)	1 ( 0.21)	483 ( 100.00)
	昭61	28 ( 5.46)	110 ( 21.44)	140 ( 27.29)	97 ( 18.91)	81 ( 15.79)	51 ( 9.94)	5 ( 0.97)	1 ( 0.19)	513 ( 100.00)

( ) %  
昭62：昭和62年  
昭61：昭和61年

表 3：単独冠の年齢階級別および部位別装着数

部位 調査年		3+3	5+4+5	8-6+6-8	8+8	3+3	5+4+5	8-6+6-8	8+8	8+8
20歳未満	昭62	9 ( 0.78)	3 ( 0.32)	4 ( 0.42)	16 ( 1.69)		2 ( 0.21)	4 ( 0.42)	6 ( 0.63)	22 ( 2.33)
	昭61	20 ( 1.73)	3 ( 0.26)	1 ( 0.09)	24 ( 2.08)	2 ( 0.17)	2 ( 0.17)	11 ( 0.95)	15 ( 1.30)	39 ( 3.37)
20歳代	昭62	57 ( 6.03)	43 ( 4.55)	58 ( 6.14)	158 ( 16.72)	8 ( 0.85)	15 ( 1.59)	55 ( 5.82)	78 ( 8.25)	236 ( 24.97)
	昭61	40 ( 3.46)	37 ( 3.20)	49 ( 4.24)	126 ( 10.90)	5 ( 0.43)	25 ( 2.16)	67 ( 5.80)	97 ( 8.39)	223 ( 19.29)
30歳代	昭62	51 ( 5.40)	53 ( 5.61)	47 ( 4.97)	151 ( 15.98)	7 ( 0.74)	25 ( 2.65)	42 ( 4.44)	74 ( 7.83)	225 ( 23.81)
	昭61	68 ( 5.88)	65 ( 5.62)	71 ( 6.14)	204 ( 17.65)	5 ( 0.43)	42 ( 3.63)	68 ( 5.88)	115 ( 9.95)	319 ( 27.60)
40歳代	昭62	46 ( 4.87)	29 ( 3.07)	25 ( 2.65)	100 ( 10.58)	2 ( 0.21)	21 ( 2.22)	39 ( 4.13)	62 ( 6.56)	162 ( 17.14)
	昭61	61 ( 5.28)	46 ( 3.98)	43 ( 3.72)	150 ( 12.98)	15 ( 1.30)	47 ( 4.07)	40 ( 3.46)	102 ( 8.82)	252 ( 21.80)
50歳代	昭62	40 ( 4.23)	26 ( 2.75)	36 ( 3.81)	102 ( 10.79)	33 ( 3.49)	40 ( 4.23)	31 ( 3.28)	104 ( 11.00)	206 ( 21.80)
	昭61	59 ( 5.10)	27 ( 2.34)	26 ( 2.25)	112 ( 9.69)	21 ( 1.82)	21 ( 1.82)	28 ( 2.42)	70 ( 6.06)	182 ( 15.74)
60歳代	昭62	15 ( 1.59)	9 ( 0.78)	13 ( 1.38)	37 ( 3.92)	15 ( 1.59)	19 ( 2.01)	8 ( 0.85)	42 ( 4.44)	79 ( 8.36)
	昭61	35 ( 3.03)	18 ( 1.56)	18 ( 1.56)	71 ( 6.14)	16 ( 1.38)	33 ( 2.85)	7 ( 0.61)	56 ( 4.84)	127 ( 10.99)
70歳代	昭62	6 ( 0.63)	2 ( 0.21)	4 ( 0.42)	12 ( 1.27)			1 ( 0.11)	1 ( 0.11)	13 ( 1.38)
	昭61	3 ( 0.26)			3 ( 0.26)	5 ( 0.43)	4 ( 0.35)		9 ( 0.78)	12 ( 1.04)
80歳以上	昭62			2 ( 0.21)	2 ( 0.21)					2 ( 0.21)
	昭61					1 ( 0.09)	1 ( 0.09)		2 ( 0.17)	2 ( 0.17)
計	昭62	224 ( 23.70)	165 ( 17.46)	189 ( 20.00)	578 ( 61.16)	65 ( 6.88)	122 ( 12.91)	180 ( 19.05)	367 ( 38.84)	945 ( 100.00)
	昭61	286 ( 24.74)	196 ( 16.96)	208 ( 17.99)	690 ( 59.69)	70 ( 6.06)	175 ( 15.14)	221 ( 19.12)	466 ( 40.31)	1156 ( 100.00)

( ) %  
昭62：昭和62年  
昭61：昭和61年

表4：単独冠支台歯の生・失活歯別および年齢階級別装着数

支台歯の状態	年齢階級 調査年	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
		生活歯	昭62 12 ( 1.27)	90 ( 9.52)	70 ( 7.41)	38 ( 4.02)	45 ( 4.76)	8 ( 0.85)	1 ( 0.11)	1 ( 0.11)
	昭61	15 ( 1.30)	92 ( 7.96)	93 ( 8.04)	46 ( 3.98)	44 ( 3.81)	26 ( 2.25)	1 ( 0.09)	2 ( 0.17)	319 ( 27.60)
失活歯	昭62	10 ( 1.06)	146 ( 15.45)	155 ( 16.40)	124 ( 13.12)	161 ( 17.04)	71 ( 7.51)	12 ( 1.27)	1 ( 0.11)	680 ( 71.96)
	昭61	24 ( 2.08)	131 ( 11.33)	226 ( 19.55)	206 ( 17.82)	138 ( 11.94)	101 ( 8.74)	11 ( 0.95)		837 ( 72.40)
計	昭62	22 ( 2.33)	236 ( 24.97)	225 ( 23.81)	162 ( 17.14)	206 ( 21.80)	79 ( 8.36)	13 ( 1.38)	2 ( 0.21)	945 ( 100.00)
	昭61	39 ( 3.37)	223 ( 19.29)	319 ( 27.60)	252 ( 21.80)	182 ( 15.74)	127 ( 10.99)	12 ( 1.04)	2 ( 0.17)	1156 ( 100.00)

( )%  
昭62：昭和62年  
昭61：昭和61年

表5：単独冠支台歯の生・失活歯別および部位別装着数

支台歯の状態	部位 調査年	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8 8+8
		生活歯	昭62 19 ( 2.01)	62 ( 6.56)	74 ( 7.83)	155 ( 16.40)	11 ( 1.16)	36 ( 3.81)	63 ( 6.67)	110 ( 11.64)
	昭61	43 ( 3.72)	57 ( 4.93)	75 ( 6.49)	175 ( 15.14)	14 ( 1.21)	49 ( 4.24)	81 ( 7.01)	144 ( 12.46)	319 ( 27.60)
失活歯	昭62	205 ( 21.69)	103 ( 10.90)	115 ( 12.17)	423 ( 44.76)	54 ( 5.71)	86 ( 9.10)	117 ( 12.38)	257 ( 27.20)	680 ( 71.96)
	昭61	243 ( 21.02)	139 ( 12.02)	133 ( 11.51)	515 ( 44.56)	56 ( 4.84)	126 ( 10.90)	140 ( 12.11)	322 ( 27.85)	837 ( 72.40)
計	昭62	224 ( 23.70)	165 ( 17.46)	189 ( 20.00)	578 ( 61.16)	65 ( 6.88)	122 ( 12.91)	180 ( 19.05)	367 ( 38.84)	945 ( 100.00)
	昭61	286 ( 24.74)	196 ( 16.96)	208 ( 17.99)	690 ( 59.69)	70 ( 6.06)	175 ( 15.14)	221 ( 19.12)	466 ( 40.31)	1156 ( 100.00)

( )%  
昭62：昭和62年  
昭61：昭和61年

名(39.96%)であった。また、長野県外の患者構成率は19名(3.93%)であった。

B. 性別および年齢階級別患者数

表2に示すように、性別では、男性が211名(43.69%)、女性が272名(56.31%)で過半数は女性であった。また、年齢構成は、20歳代から50歳代までの患者が約90%近くを占め、62年度は、特に20歳代が25.26%と最も高い構成率を占めた。

C. 単独冠および架工義歯の装着数

昭和62年における1ヶ年間の単独冠の装着数は945個、架工義歯は211装置であった。

D. 単独冠について

1. 年齢階級別装着頻度

表3に示すように、最も高かったのは20歳代

(236個, 24.97%)で、30歳代(225個, 23.81%)、50歳代(206個, 21.80%)と続き、20歳代から50歳代までで全体の90%近くを占めていた。

2. 性別装着頻度

表7に示すように、女性に装着された単独冠は588個(62.22%)と過半数を占めていた。

3. 部位別装着頻度

表3に示すように、顎別では上顎(578個, 61.16%)が下顎(367個, 38.84%)よりも多かった。

歯群別にみると、上顎前歯部(224個, 23.70%)が最も多く、次いで上顎大臼歯部(189個, 20.00%)、下顎大臼歯部(180個, 19.05%)と続き、下顎前歯部(65個, 6.88%)が最も少なかった。

表6：単独冠の種類別および年齢階級別装着数

種類	年齢階級 調査年	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
		( )%								
全部 铸造冠	昭62	3 (0.32)	73 (7.72)	103 (10.90)	93 (9.84)	109 (11.53)	37 (3.92)	7 (0.74)	2 (0.21)	427 (45.19)
	昭61	9 (0.78)	76 (6.57)	165 (14.27)	149 (12.89)	81 (7.01)	65 (5.62)	3 (0.26)	1 (0.09)	549 (47.50)
前装冠	昭62	7 (1.04)	63 (6.67)	50 (5.29)	41 (4.34)	27 (2.86)	14 (1.48)	2 (0.21)		204 (21.59)
	昭61	7 (0.61)	48 (4.15)	66 (5.71)	53 (4.58)	40 (3.46)	31 (2.68)	5 (0.43)		250 (21.63)
既製陶歯前装冠	昭62									
	昭61									
レジ前装冠	昭62			4 (0.42)	2 (0.21)	6 (0.63)				12 (1.27)
	昭61			6 (0.52)	23 (1.99)	27 (2.34)	15 (1.30)	5 (0.43)		76 (6.57)
陶材溶着铸造冠	昭62	7 (1.04)	63 (6.67)	46 (4.87)	39 (4.13)	21 (2.22)	14 (1.48)	2 (0.21)		192 (20.32)
	昭61	7 (0.61)	48 (4.15)	60 (5.19)	30 (2.60)	13 (1.12)	16 (1.38)			174 (15.05)
ジャケット冠	昭62	3 (0.32)	21 (2.22)	17 (1.80)	6 (0.63)	38 (4.02)	13 (1.38)	4 (0.42)		102 (10.79)
	昭61	11 (0.95)	4 (0.35)	16 (1.38)	16 (1.38)	36 (3.11)	18 (1.56)	4 (0.35)	1 (0.09)	106 (9.17)
レジジャケット冠	昭62	1 (0.11)	15 (1.59)	17 (1.80)	6 (0.63)	34 (3.60)	12 (1.27)	4 (0.42)		89 (9.42)
	昭61	11 (0.95)	4 (0.35)	16 (1.38)	16 (1.38)	36 (3.11)	18 (1.56)	4 (0.35)	1 (0.09)	106 (9.17)
ポーセレンジャケット冠	昭62	2 (0.21)	6 (0.63)			4 (0.42)	1 (0.11)			13 (1.38)
	昭61									
継続歯	昭62		4 (0.42)	2 (0.21)						6 (0.63)
	昭61	3 (0.26)	7 (0.61)	2 (0.17)	13 (1.12)	4 (0.35)	2 (0.17)			31 (9.42)
一部被覆冠	昭62	9 (0.95)	75 (7.94)	53 (5.61)	22 (2.33)	32 (3.39)	15 (1.59)			206 (21.80)
	昭61	9 (0.78)	88 (7.61)	70 (6.06)	21 (1.82)	21 (1.82)	11 (0.95)			220 (19.03)
計	昭62	22 (2.33)	236 (24.97)	225 (23.81)	162 (17.14)	206 (21.80)	79 (8.36)	13 (1.36)	2 (0.21)	945 (100.00)
	昭61	39 (3.37)	223 (19.29)	319 (27.60)	252 (21.80)	182 (15.74)	127 (10.99)	12 (1.04)	2 (0.17)	1156 (100.00)

( )%  
昭62：昭和62年  
昭61：昭和61年

た。

年齢階級別との関係において，類別にみると50歳代および60歳代において下顎が上顎を上回っていた。

4. 支台歯の生・失活歯別装着頻度

表4，表5は，支台歯の生・失活歯別装着頻度を年齢階級別および部位別との関係で表したものである。

全体では，失活歯が680歯(71.96%)，生活歯が

265歯(28.04%)であった。

年齢階級別では，80歳代を除くすべての階級において失活歯が生活歯を上回っており，部位別でも全ての部位で失活歯が生活歯を上回っていた。

5. 種類別装着頻度

表6，表7，表8は，支台装置の種類別装着頻度を年齢階級別，性別および部位別との関係で表したものである。

種類別装着頻度では，全部铸造冠が427個

表7：単独冠の種類別および性別装着数

種類	調査年	性別		計
		男	女	
全部铸造冠	昭62	164 (17.35)	263 (27.83)	427 (45.19)
	昭61	223 (19.29)	326 (28.20)	549 (47.49)
前装冠	昭62	66 (6.98)	138 (14.60)	204 (21.59)
	昭61	58 (5.02)	192 (16.61)	250 (21.63)
既製陶歯前装冠	昭62			
	昭61			
レジン前装冠	昭62	6 (0.63)	6 (0.63)	12 (1.27)
	昭61	13 (1.12)	63 (5.45)	76 (6.57)
陶材溶着铸造冠	昭62	60 (6.35)	132 (13.97)	192 (20.32)
	昭61	45 (3.89)	129 (11.16)	174 (15.05)
ジャケット冠	昭62	38 (4.02)	64 (6.77)	102 (10.79)
	昭61	45 (3.89)	61 (5.28)	106 (9.17)
レジンジャケット冠	昭62	34 (3.60)	55 (5.82)	89 (9.42)
	昭61	45 (3.89)	61 (5.28)	106 (9.17)
ポーセレンジャケット冠	昭62	4 (0.42)	9 (0.95)	13 (1.38)
	昭61			
継続歯	昭62	6 (0.63)		6 (0.63)
	昭61	15 (1.30)	16 (1.38)	31 (2.68)
一部被覆冠	昭62	83 (8.78)	123 (13.02)	206 (21.80)
	昭61	70 (6.06)	150 (12.98)	220 (19.03)
計	昭62	357 (37.78)	588 (62.22)	945 (100.00)
	昭61	411 (35.55)	745 (64.45)	1156 (100.00)

( )%  
昭62：昭和62年  
昭61：昭和61年

(45.19%)で最も多く、次いで一部被覆冠206個(21.80%)、前装冠204個(21.59%)、ジャケット冠102個(10.79%)、継続歯6個(0.61%)の順であった。

6. 支台築造体について

表9、表10は、支台築造体の種類別築造頻度を部位別および装着冠の種類別との関係で表したものである。

部位別にみると、全ての歯群においてキャスト

コアが大半を占めているが、レジンコア、セメントコアが昭和61年より増加した。

単独冠の種類別にみても、キャストコアが大半を占めていた。

考 察

今回の報告は、松本歯科大学病院補綴診療科における昭和62年1月から同年12月までの1カ年間において、作製、装着した単独冠について、患者総数と地域別患者数、性別と年齢階級別患者数などについて調査したものである。以下、今回の調査成績を総括、考察するとともに、昭和61年の調査報告<sup>7)</sup>と比較した。

A. 患者総数と地域別患者数について

患者総数は、483名で昭和61年の報告と比較して30名(5.85%)の減少はみられたものの、大きな変化はみとめられなかった。

また、地域別構成率においても、大きな変化はみとめられなかった。

これらのことは、長野県、塩尻市および隣接する市町村の人口などに大きな変化がみられなかったこと<sup>8)</sup>などが一因として考えられる。

B. 性別および年齢階級別患者数について

男女比については、その差は昭和61年よりも縮まっていたが、構成率で女性が男性を上回っており、これは他の報告<sup>2-7)</sup>と同様であった。これは、女性のほうが男性よりも、比較的通院する時間が得やすい環境にあるためと思われる。

C. 単独冠について

年齢階級別装着頻度では、20歳代から50歳代までが90%近くを占めたが、これは昭和61年の報告<sup>7)</sup>と同様であり、他の報告<sup>1-6,9-13)</sup>とも一致している。これらのことは、齲蝕罹患率<sup>14)</sup>と年代別処置歯率などからもうかがえる。

性別装着頻度では、性別患者数の成績と同様に女性の構成率が高くなった。このことは、齲蝕罹患性の差や都市近郊型患者構成によることなどが原因していると思われる。

部位別装着頻度では、顎別では上顎が下顎を上回り、歯群別では、上顎前歯部が最も多く、下顎前歯部が最も少なかった。

これらは、齲蝕罹患率などから考えると当然の結果である。

支台歯の生・失活歯別装着頻度では、昭和62年

表8：単独冠の種類別および部位別装着数

種類	調査年	部位		3+3		54 45		8-6 6-8		8+8		3+3		54 45		8-6 6-8		8+8		8+8	
		3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8
全部鑄造冠	昭62		93 ( 9.84)	131 ( 13.86)	224 ( 23.70)		83 ( 8.78)	120 ( 12.70)	203 ( 21.48)	427 ( 45.19)											
	昭61		116 ( 10.03)	142 ( 12.28)	258 ( 22.32)		134 ( 11.59)	157 ( 13.58)	291 ( 25.17)	549 ( 47.49)											
前装冠	昭62	149 ( 15.77)	18 ( 1.90)	4 ( 0.42)	171 ( 18.10)	14 ( 1.48)	9 ( 0.95)	10 ( 1.06)	33 ( 3.49)	204 ( 21.59)											
	昭61	181 ( 15.66)	21 ( 1.82)	3 ( 0.26)	205 ( 17.73)	30 ( 2.60)	8 ( 0.69)	7 ( 0.61)	45 ( 3.89)	250 ( 21.63)											
既製陶歯前装冠	昭62																				
	昭61																				
レジ前装冠	昭62	8 ( 0.85)	3 ( 0.32)		11 ( 1.16)	1 ( 0.11)				1 ( 0.11)	12 ( 1.27)										
	昭61	48 ( 4.15)	2 ( 0.17)	1 ( 0.09)	51 ( 4.41)	23 ( 1.99)	2 ( 0.17)		25 ( 2.16)	76 ( 6.57)											
陶材溶着鑄造冠	昭62	141 ( 14.92)	15 ( 1.59)	4 ( 0.42)	160 ( 16.93)	13 ( 1.38)	9 ( 0.95)	10 ( 1.06)	32 ( 3.39)	192 ( 20.32)											
	昭61	133 ( 11.51)	19 ( 1.64)	2 ( 0.17)	154 ( 13.32)	7 ( 0.61)	6 ( 0.52)	7 ( 0.61)	20 ( 1.73)	174 ( 15.05)											
ジャケット冠	昭62	66 ( 6.98)			66 ( 6.98)	33 ( 3.49)	3 ( 0.32)		36 ( 3.81)	102 ( 10.79)											
	昭61	81 ( 7.01)			81 ( 7.01)	25 ( 2.16)			25 ( 2.16)	106 ( 9.17)											
レジジャケット冠	昭62	57 ( 6.03)			57 ( 6.03)	29 ( 3.07)	3 ( 0.32)		32 ( 3.39)	89 ( 9.42)											
	昭61	81 ( 7.01)			81 ( 7.01)	25 ( 2.16)			25 ( 2.16)	106 ( 9.17)											
ポーセレンジャケット冠	昭62	9 ( 0.95)			9 ( 0.95)	4 ( 0.42)			4 ( 0.42)	13 ( 1.38)											
	昭61																				
継続歯	昭62	5 ( 0.53)			5 ( 0.53)	1 ( 0.11)			1 ( 0.11)	6 ( 0.63)											
	昭61	14 ( 1.21)	2 ( 0.17)	1 ( 0.09)	17 ( 1.47)	9 ( 0.78)	2 ( 0.17)	3 ( 0.26)	14 ( 1.21)	31 ( 2.68)											
一部被覆冠	昭62	4 ( 0.42)	54 ( 5.71)	54 ( 5.71)	112 ( 11.85)	17 ( 1.80)	27 ( 2.86)	50 ( 5.29)	94 ( 9.95)	206 ( 21.80)											
	昭61	10 ( 0.86)	57 ( 4.93)	62 ( 5.36)	129 ( 11.16)	6 ( 0.52)	31 ( 2.68)	54 ( 4.67)	91 ( 7.87)	220 ( 19.03)											
計	昭62	224 ( 23.70)	165 ( 17.46)	189 ( 20.00)	578 ( 61.16)	65 ( 6.88)	122 ( 12.91)	180 ( 19.05)	367 ( 38.84)	945 ( 100.00)											
	昭61	286 ( 24.74)	196 ( 16.96)	208 ( 17.99)	690 ( 59.69)	70 ( 6.06)	175 ( 15.14)	221 ( 19.12)	466 ( 40.31)	1156 ( 100.00)											

( )%

昭62：昭和62年

昭61：昭和61年

も失活歯支台のものが全体の70%以上を占めているものの、この比率は年々減少の傾向にある。このことは、歯内療法の発達および歯牙保存の考え方の浸透が一つの原因になっていると思われる。

種類別装着頻度では、全部鑄造冠が最も大きな値を示したが年々減少の傾向にある。一方、陶材溶着鑄造冠や一部被覆冠などが増加していることから、審美的要求の高まりと残存歯質を極力保存するという最近の傾向がうかがえる。

支台築造体では、昭和61年までの報告<sup>1-7)</sup>と同様、キャストコアが最も高い築造頻度を示し、支台築造の基本となっている。しかし、レジヤセメントの材料や技術の進歩に伴うと思われる築造頻度の増加がみられた。

結 論

松本歯科大学病院補綴診療科に昭和62年1月から同年12月までの1年間に来院した患者および

表9：単独冠支台築造体の種類別および部位別築造数

種類	調査年	部位								
		3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8 8+8
キャスト コア	昭62	183 (27.15)	93 (13.80)	95 (14.09)	371 (55.04)	45 (6.68)	72 (10.68)	102 (15.13)	219 (32.49)	590 (87.54)
	昭61	215 (26.67)	123 (15.26)	121 (15.01)	459 (56.95)	47 (5.83)	113 (14.02)	128 (15.88)	288 (35.73)	747 (92.68)
アマルガム コア	昭62			2 (0.30)	2 (0.30)		2 (0.30)	1 (0.15)	3 (0.45)	5 (0.74)
	昭61		2 (0.25)	2 (0.25)	4 (0.50)		1 (0.12)	1 (0.12)	2 (0.25)	6 (0.74)
レジ コア	昭62	12 (1.78)	1 (0.15)	7 (1.04)	20 (2.97)	3 (0.45)	4 (0.59)	13 (19.29)	20 (2.97)	40 (5.93)
	昭61	6 (0.74)	6 (0.74)	5 (0.62)	17 (2.11)		3 (0.37)	1 (0.12)	4 (0.50)	21 (2.61)
セメント コア	昭62	5 (0.74)	9 (1.34)	11 (1.63)	25 (3.71)	1 (0.15)	7 (1.04)	6 (0.89)	14 (2.08)	39 (5.79)
	昭61	8 (0.99)	6 (0.74)	4 (0.50)	18 (2.23)		7 (0.87)	7 (0.87)	14 (1.74)	32 (3.97)
計	昭62	200 (29.67)	103 (15.28)	115 (17.06)	418 (62.02)	49 (7.27)	85 (12.61)	122 (18.10)	256 (37.98)	674 (100.00)
	昭61	229 (28.41)	137 (17.00)	132 (16.38)	498 (61.79)	47 (5.83)	124 (15.83)	137 (17.00)	308 (38.21)	806 (100.00)

( ) %  
昭62：昭和62年  
昭61：昭和61年

表10：単独冠支台築造体の種類別および単独冠の種類別築造数

築造体	調査年	全部 鑄造冠	前 装 冠	既 製 前 装 陶 歯 冠	レ ジ ン 前 装 冠	陶 材 鑄 造 着 冠	ジ ャ ケ ット 冠	レ ジ ン ジ ャ ケ ット 冠	ポ リ セ レ ン ト 冠	継 統 歯	一 部 被 覆 冠	計
	昭61	426 (52.85)	212 (26.30)		57 (7.07)	155 (19.23)	84 (10.42)	84 (10.42)			25 (3.10)	747 (92.68)
アマルガム コア	昭62	3 (0.45)									2 (0.30)	5 (0.74)
	昭61	6 (0.74)										6 (0.74)
レジ コア	昭62	23 (3.41)	5 (0.74)			5 (0.74)	10 (1.48)	5 (0.74)	5 (0.74)		2 (0.30)	40 (5.93)
	昭61	15 (1.86)	6 (0.74)		2 (0.25)	4 (0.50)						21 (2.61)
セメント コア	昭62	27 (4.01)	4 (0.59)			4 (0.59)	5 (0.74)	4 (0.59)	1 (0.15)		3 (0.45)	39 (5.79)
	昭61	22 (2.73)	4 (0.50)		2 (0.25)	2 (0.25)	3 (0.37)	3 (0.37)			3 (0.37)	32 (3.97)
計	昭62	370 (54.90)	182 (27.00)		11 (1.63)	171 (25.37)	99 (14.69)	87 (12.91)	12 (1.78)		23 (3.41)	674 (100.00)
	昭61	469 (58.19)	222 (27.54)		61 (7.57)	161 (19.98)	87 (10.79)	87 (10.79)			28 (3.47)	806 (100.00)

( ) %  
昭62：昭和62年  
昭61：昭和61年

作製、装着された単独冠を中心に調査を行い、以下の結果を得た。

1. 患者総数は、483名で昭和61年より減少した

が、塩尻市内在住者の地域別患者構成率の増加がみられた。

2. 性別患者構成率では、女性が56.31%を占め



た。また、年齢階級別構成率では、20歳代から50歳代までが全体の87.16%を占めた。

3. 単独冠および架工義歯の装着数は、それぞれ945個と211装置であった。

#### 4. 単独冠について

イ) 年齢階級別装着頻度では、20歳代から50歳代までが全体の87.72%を占め、20歳代が最も多かった。

ロ) 部位別装着頻度では、上顎が61.16%を占め、歯郡別では、上顎前歯部が最も多く、下顎前歯部が最も少なかった。

ハ) 支台歯の生・失活歯別装着頻度では、失活歯が71.96%を占めた。

ニ) 支台装置の種類別装着頻度では、全部铸造冠が45.19%と最も高く、次いで一部被覆冠、陶材溶着铸造冠であった。

ホ) 支台築造体では、キャストコアが全体の87.54%を占めた。

5. 昭和61年と比較すると、単独冠が211個(18.25%)の減少をみたが、他の調査項目については、特に大きな傾向の変化は認められなかった。

#### 文 献

- 1) 長田 淳, 三沢京子, 戸祭正英, 伊藤晴久, 岩崎精彦, 石原善和, 大野 稔, 小山 敏, 高橋久美子, 押川卓一郎, 甘利光治 (1985) 昭和49年における冠・架工義歯に関する統計的観察・松本歯学, 11: 70~83.
- 2) 伊藤晴久, 竹内利之, 戸祭正英, 長田 淳, 三沢京子, 岩崎精彦, 石原善和, 乙黒明彦, 片岡 滋, 高橋喜博, 甘利光治 (1985) 昭和52年における冠・架工義歯に関する統計的観察. 松本歯学, 11: 84~102.
- 3) 平野龍紀, 杉本久美子, 戸祭正英, 石原善和, 伊藤晴久, 岩崎精彦, 乙黒明彦, 大野 稔, 片岡 滋, 大溝隆史, 甘利光治 (1985) 昭和55年における冠・架工義歯に関する統計的観察. 松本歯学, 11: 222~244.
- 4) 杉本久美子, 長田 淳, 石原善和, 伊藤晴久, 岩崎精彦, 三沢京子, 小山 敏, 高橋喜博, 岩根健二, 宮崎晴朗, 甘利光治 (1985) 昭和58年における冠・架工義歯に関する統計的観察. 松本歯学, 11: 245~269.
- 5) 大野 稔, 岩井啓三, 石原善和, 乙黒明彦, 片岡 滋, 岩根健二, 戸祭正英, 甘利光治, 中根 卓, 太田紀雄 (1986) 昭和59年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1. 松本歯学, 12: 355~365.
- 6) 大溝隆史, 竹下義仁, 岩井啓三, 石原善和, 片岡 滋, 高橋喜博, 大島俊昭, 稲生衡樹, 伊藤晴久, 乙黒明彦, 三沢京子, 岩根健二, 甘利光治, 中根 卓 (1988) 昭和60年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1. 松本歯学, 14: 218~227.
- 7) 竹下義仁, 大溝隆史, 岩井啓三, 石原善和, 片岡 滋, 大島俊昭, 稲生衡樹, 小林賢一, 甘利光治, 中根 卓 (1988) 昭和61年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1. 松本歯学, 14: 306~315.
- 8) 長野県総務部情報統計課編 (1987) 昭和60年 長野県統計書.
- 9) 河原邑安, 谷口 勉, 藤本正之, 森 勝利, 藤田茂信, 今上茂樹, 山本萬里子, 村山茂樹 (1977) 大阪歯科大学臨床歯科学研究所付属診療所における最近5年間における統計的観察 その1. 各種補綴物の装着頻度について. 歯科医学, 40: 916~922.
- 10) 小森富夫, 甘利光治, 坂本義典, 里見雅輝, 藤多文雄, 沢村直明, 小沢 寛, 田中昌博, 斎藤高子 (1980) 昭和53年における統計的観察 その1. 単独補綴冠. 歯科医学, 43: 268~276.
- 11) 川添堯彬, 大塚 潔, 山下秀介, 村田洋一, 井田治彦, 山下鈴之助, 末瀬一彦, 坂井田藤芳 (1985) 昭和58年における統計的観察 その1. 単独補綴冠. 歯科医学, 48: 691~698.
- 12) 中嶋 武, 小林琢三, 山田芳夫, 吉田 忠 (1977) 各種補綴物の10年間の統計 (I). 岩医大歯誌, 2: 22~28.
- 13) 天野秀雄, 沼倉則正, 高橋美好, 秋山 修, 榎本功, 荻野悦志, 小沢英世, 田端義雄, 柳田正浩, 山中大和, 前田睦夫 (1977) 冠, 架工義歯の統計的観察. 城西大紀要, 6: 247~254.
- 14) 厚生省医務局歯科衛生科編 (1981) 昭和56年歯科疾患実態調査報告. 口腔保険協会, 東京.